

令和2年度 学校経営報告書（自己評価）【全日制】

学校番号	40	学校名	県立科学技術高等学校	校長名	松村 照司
------	----	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	日常の学習習慣を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に主体的に取り組んでいると答える生徒80%以上 ・授業の内容がよく分かると回答する生徒90%以上 ・教員は授業を大切にするとともに、分かりやすい授業を行おうと努めていると答える保護者80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・85.0%（92.0%）達成できた。 ・90.6%（89.6%）達成できた。 ・83.8%（77.7%）達成できた。 	A A A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で、年間スケジュールが大幅に変わってしまった中、効果的な授業を展開した成果が出ている。 ・ICTを利用した学習方法を更に研究するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、生徒たちが「どのように学ぶか」に焦点を当てた授業改善が必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・1日10時間、授業や課外、家庭での集中した学習活動の達成50%以上。 ・学習と部活動等の課外活動が両立できていると答える生徒70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・38.0%（37.5%）目標には届かなかった。 ・65.0%（62.1%）目標には届かなかった。 	B B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間と放課後活動の相互作用により、更に充実した学校生活を送るための意識高揚を図っていく。 ・昨年度より約3%増加したが、目標には到達できなかった。次年度こそ目標の70%をクリアしたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・教養力テストの実施 	テスト実施8回（20回）	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で、日程を変更しなければならなかったが、8回実施することができた。
	個々の生徒のニーズに対応した進路指導体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ・手帳等を活用し、生活習慣を整え、学習時間やスケジュールの管理ができている生徒60%以上 	全体 26.6%（20.2%） 目標には届かなかった。 1年 28.0%（23.7%） 2年 22.9%（16.8%） 3年 28.8%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト1週間前の活用状況は、HRで開く49(55)%、記録56(61)%、携帯30(35)%、自宅で開く56%と、昨年に近い結果となっており、スケジュール管理としての活用は安定している。 ・目標の60%に遠く及ばなかった。与えられた時間をどのように自分の時間として有意義に使うかといったタイムマネジメント力や、学習時間調査などの

様式第3号

					実績の蓄積など、手帳活用の目的を明確にして生徒の理解を得ることが課題である。
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の将来に対する夢や希望を持っていると答える生徒70%以上 信頼できる先生がいると答える生徒70%以上 きめ細やかで適切な進路指導がなされていると答える保護者80%以上 	<p>全体 70.7% (65.0%) 達成できた。</p> <p>1年 68.3% (59.9%) 2年 61.0% (58.4%) 3年 83.3% (77.0%) 全体 76.3% (67.3%) 達成できた。</p> <p>1年 76.0% (62.1%) 2年 73.9% (65.3%) 3年 78.9% (74.7%) 全体 77.8% (85.5%) やや達成できなかった。</p> <p>1年 69.2% (69.9%) 2年 73.9% (77.3%) 3年 92.2% (91.8%)</p>	A A B	<ul style="list-style-type: none"> 目標の70%以上を概ね達成できたと考えられる。進路目標を具体的にしていこうと、その進路に対する希望ややりがいなどを持たせていこうことが課題となる。夢や希望…、信頼できる…、については学年が上がるごとに数値も上昇したり、3年間を見通した指導体制を維持できたものと判断できる。 目標の70%を上回ることができ、十分に達成できたと考える。日常での生徒の言動や普段と違う兆候など、職員間で情報を共有することを引き続き実践していくことが課題である。 目標は80%以上であったが、69.2%と十分でなかった。しかし、実際の指導が保護者にはわからないことから、どちらともいえないと答える割合が20%あったと考える。また、進路情報を十分に提供していると答える保護者の割合が81.3%あり、進路指導としては十分な回答を得られていると判断する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学合格者50人以上 就職内定率100% 	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学合格者 36人 (40人) 高専合格者 3人 (3人) 就職内定率【100%見込】 ※令和3年2月4日時点 	A A	<ul style="list-style-type: none"> 多くの職員の協力のもと、きめ細やかな進路指導ができていたが、同時に職員の負担も非常に大きい。学校全体の業務改善を行うことや、組織の精選を行うことで職員の負担減につなげていかなければならない。 	
部活動を効率的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 部活動に参加している生徒70%以上 学校が楽しいと答える生徒70%以上 部活動ガイドライン等を踏まえ、適切な指導ができたと答える教員90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 79.0% (71.9%) 達成できた。 60.0% (56.8%) 目標には届かなかった。 72.9% (100%) 目標には届かなかった。 	A B B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ渦で多くの部活で大会が中止になり、活動内容も制限されるなど、活動に苦勞した一年であったが、効率的な活動ができるよう工夫を凝らし、心身の鍛錬、技術に磨きをかけることができた。学習との両立について自らが目標に向け努力する姿勢が身につけば更に成果が期待できる。 様々な制限がある中で、感染対策を含め部活動ガイドライン沿った効率的な活動をすることができた。 	

様式第3号

	<p>生徒主体の活動を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会が企画した事業の実施年2回以上 	<ul style="list-style-type: none"> 行事は生徒が主体的にかかわられるように企画されている。81.6% (68.8%) 委員会や当番の仕事がきちりできている。83.0% (82.1%) 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大の影響で体育祭や野球応援などは中止になったが、文化祭では生徒会を中心に企画運営を行い、成果を揚げた。 例年に比べ活動する機会は減ったが、その中でも生徒会や委員会を中心に地道な活動を行い、生徒の意識の高揚につながった。特に文化祭では、感染症対策を含め企画から運営まで生徒会が中心となり行い、自主性や実践力、団結力など人間的な成長を促す機会となった。今後は更に委員会活動を活発化し生徒の自主性を育てたい。
<p>イ</p>	<p>探究的な教育活動を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究への主体的な取組を促すとともに、STEM教育等の教科横断的な取組を実践する。 	<p>【機械工学】達成できた。</p> <p>【電気工学】課題研究にてSTEM教育を考慮した、ものづくりを実施。</p> <p>【ロボット工学】第二種電気工事士26名受験 (結果発表日1月22日) 技能検定3級テクニカルイラストレーション21名受験 (結果発表3月19日)</p> <p>【電子工学】マイコンカーの製作による大会への参加</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>【機械工学】静岡県ものづくり競技大会旋盤、CAD、フライス盤部門出場、静岡県溶接アートコンテスト出展。その他の大会に参加を促し、活躍することができた。練習や製作には課題研究を活用して指導した。今後、継続して指導していく。</p> <p>【電気工学】防災を意識したものづくりを行い、太陽光発電を利用した製作では、数学的な設計も実施した。機械系職員と共同して機械と電気を組み合わせた探求的な製作を行うことができた。これにより、生徒の工学に対するスキルが向上した。非常勤職員が通院等の不在時には、代替職員の配置が困難</p> <p>【ロボット工学】情報システム科との連携で電気工事講習を実施指導できる教員が減り、補習担当時間が多くなった。教員数の確保、朝、放課後等勤務時間外の指導となるので、教員のボランティアに頼っている。</p> <p>【電子工学】ジャパンイコノカ-リー-2021大会は、コロナの影響により中止された。静岡県大会は、コロナ対策をしたうえで実施し参加したが、12台参加したうち5台しか完走しなかった。しかし、上位4位まで独占した。</p>

様式第3号

			<p>【情報システム】主体的に課題研究に取り組むことができ、外部への活動も行えた。</p> <p>【建築デザイン】設計、ものづくり等対外競技入賞者数40超。</p> <p>【都市基盤工学】課題研究では5テーマについて生徒が主体的に研究活動を行った。</p> <p>【物質工学】地元2大学による出張授業を実施した。</p> <p>【理数科】R3英検合格者準2級34名、2級5名 感染症流行のため、検定受験者が減少した。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>【情報システム】生徒が希望する研究内容に応じて、必要に応じて外部連携を推進した。</p> <p>【建築デザイン】部活動を中心に時間外勤務による成果。</p> <p>【都市基盤】それぞれのテーマに分かれ意欲的に学習に取り組んだ。その成果を学校祭や課題研究発表会等で広く発表することができた。</p> <p>【物質工学】静岡大学、静岡県立大学と連携した授業を展開した。</p> <p>【理数】準2級合格者は増加した。71%⇒78%⇒83% 2級合格者は減少した。6名⇒7名⇒5名</p>
<p>専門分野の能力を向上させるとともに、必要な資質を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大会出場、全国規模のコンクール等の入賞 ・国家資格等の高度な資格に挑戦させ、受験者数及び合格者数の増加。全学科で記述者倫理に関する指導を行う。 	<p>【機械工学】達成できた。</p> <p>【電気工学】高度な電気の資格取得 第三種電気主任技術者（電験三種） 3年 全合格1名 2科目 合格1名 第一種電気工事士合格 1/29発表 筆記合格は19名 3年:10名 2年:5名 1年:4名（技能練習22名）</p> <p>【ロボット工学】実践ビジネス講座受講（2年生）</p> <p>【情報システム】IT夢コン2020への参加、静岡県もの</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>【機械工学】ジュニアマイスターゴールド3名（2名、次年度申請予定1名）。技能士試験に以下の生徒が受験予定。（機械検査25名受験、テクニカルイラストレーション2級4名、3級28名、機械・プラント製図3級6名、フライス盤3級1名）</p> <p>【電気工学】学年担当が電験三種の朝補習を実施し、参加者は良好な結果を得た。電験三種は6年ぶりの合格者であり、静岡新聞にも掲載がされた。</p> <p>【ロボット工学】受講することにより、講義と実技の組み合わせで生徒の自立心、創造力、チャレンジ精神などを伸ばすことができた。</p> <p>【情報システム】IT夢コン2020において敢闘賞、県ものづくり競技大会に3名出場できた。</p> <p>【都市基盤工学】3年生において高度資格となる国家資格を複数持つ生徒を多く輩出した。 ・国家資格2つ（11人）・国家資格1つ（33人）</p>	

様式第3号

		<p>づくり競技大会に出場できた。</p> <p>【建築デザイン】コロナ禍における、試験中止や受験による長距離移動と3密を回避するために受験をあきらめた。後期技能検定は受験予定。</p> <p>【都市基盤】・2級土木施工管理技術検定試験 2年生の合格率95% (38人/40人) 3年生の最終合格率84% (32人/38人)</p> <p>・2級造園施工管理技術検定試験 3年生の合格率71% (12人/17人)</p> <p>・測量士補 2年生合格者3人、合格率33%(3人/9人)</p> <p>【物質工学】国家資格等の高度な資格に積極的に挑戦させた。</p> <p>【理数】中学生を対象とした科学教室を行った。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>【物質工学】物質工学科1年の危険物取扱者乙種4類の合格率は34%であった。危険物取扱者甲種取得者は2名であった。</p> <p>【理数】中学生の参加者は、74名であった。(定員75名)感染症への対策も継続する。</p>
	<p>・全学科で技術者倫理に関する指導を行う。</p>	<p>・情報モラルや公害問題等、過去の事例及び未来への注意点等を、座学と実習を通して全学科で指導した。</p>	<p>A</p>	<p>・工業の技術が、世の中でどのように利用されているのか、学習した内容が世の中でどのように役に立っているのかを実感を持たせることにより、誤った方向に技術が使われないように指導を行った。</p> <p>・情報管理の徹底や、リサイクル及び資源の有効利用等、技術者としての自覚を促した。</p>

様式第3号

ウ	<p>グローバル化への対応と国際理解教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一層充実した研修ができるように検討する。 英語検定等の受験者数の増加（CEFR B1及びA2レベルの生徒数の増加） 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響で、海外研修を中止せざるを得なかったが、海外研修代替の国内における英語研修を計画した。 進学、就職を問わず全生徒に英検取得の必要性を周知させ、受験を促した。新型コロナウイルス感染症の影響で、第一回の英検受験を中止せざるを得なかったため、総受験者数は増加しなかったが、同一回の受験者数を見ると、どの回においても大幅に増加した昨年度に比べ大きな減少はなく、一昨年より増加した。 	<p>A</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 海外研修に替わる英語研修プログラムを企画した。募集人数を10名から20名に増やしたことに対する募集PRの仕方を工夫する必要がある。 新型コロナウイルス感染症の影響で受験者数が伸びなかった。また、CBTによる受験も可能になったため、3年生を中心に、本校で受験せず、受験日が自由に選択できるCBTによる受験に流れたことも本校における受験者数が増加しなかった要因である。受験者が個人で受験した成績を提供・活用できる「団体向け成績提供システム」の導入を含めた受験者数の把握の仕方を検討していきたい。
	<p>持続可能な社会の一員としての素養を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶がしっかりとできていると答える生徒95%以上 身だしなみがしっかりとできていると答える生徒95%以上 スマートフォン・携帯電話は適切に利用していると答える生徒80%以上 生徒一人当たりの年平均図書貸出冊数 2冊以上 図書館来館者数延べ10,000人以上 	<ul style="list-style-type: none"> 93.9% (91.8%) あと一歩で達成できる。 96.8% (94.3%) ほぼ達成できた。 76.0% (71.5%) 目標には届かなかった。 1.2冊 (2.0冊) 貸し出し冊数は現在延べ1,331冊 (2,154冊) 目標を達成できなかった。 6,651人 (10,679人) 目標を達成できなかった。 	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナ渦であったが、状況に応じた身だしなみ指導や巡視活動、交通指導、感染症対策など学校全体で取り組み、基本的な生活習慣の確立・規範意識の高揚などにつながった。数件の問題行動はあったが全体としては落ち着いた状況であった。情報モラルについては認識の甘い生徒もいるため、今後も意識を高めるため継続的な指導をしていく必要がある。 7月初旬に『私の一冊』を発行し、その中で紹介された本を展示することで生徒の読書活動を促した。図書館NEWS、新着図書紹介を定期的に発行し、スタンプラリー期間を年5回設けるなど、利用促進を図る努力をしている。文化祭では職員有志の協力を得て図書委員会主催の「ブックトーク&音楽会」を開催した。今年度は来校者が制限された中、本校の生徒が多く来場した。

様式第3号

					<ul style="list-style-type: none"> ・8月にプラスチック加工興和株式会社より新聞閲覧台、コイル展示台、ブックスタンド等の寄贈があり、より目を引く展示ができるようになった。可動式書棚の小論文対策コーナーも、より充実させることができた。また、工業系や進路に関する漫画のコーナーは、生徒を図書室に呼び込むきっかけとなった。休校期間もあったが、貸出冊数をどう伸ばしていくか、利用されやすい図書室にするにはどうすればよいかは今後も引き続き課題である。放課後18時までの開館時間延長は、本年度も週2日のみ事務補助員に変形労働時間制をとってもらう形で実施した。自習のために利用する生徒も増えてきたため、図書室に常駐する職員を置けるよう要請していきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ、保育体験実習に参加した生徒の満足度90%以上 			<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップを実施することができず、進路に対する意識づけが例年に比べて遅れており、心配である。進路指導をきめ細かく行っていきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・資源の大切さを意識させるとともに3Sの意味を理解し、積極的に取り組んでいると答える生徒70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・60.9% (61.7%) 目標には届かなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に整備委員による清掃場所のポスターの掲示を実施した。整備委員による年度内2回の清掃場所の確認を実施した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールの遵守に心掛けていると答える生徒90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・92.0% (90.9%) 目標を上回った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・交通街頭指導を計画通りに実施した。
エ	<p>カリキュラム・マネジメントを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい教育課程の編成 ・令和3年度から学校運営協議会制度を導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の教育課程を概ね確定することができた。 ・令和3年度の1年間をかけて、学校運営協議会制度の導入を検討することとなった。 	<p>A</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学科改編に対応しながら、令和3年度の教育課程を確定することができた。 ・高校教育課の助言を受けながら、令和4年度の実施に向けて、教育課程を煮詰めていく必要がある。 ・本年度は大きな変更を要するものはなかったが、新教育課程の開始に向けて、内規の見直しが必要になると思われる。

様式第3号

<p>特別支援教育体制を確立する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談だよりを、月1回以上発行 ・1年生全員を対象としたカウンセリングを実施 ・個別の指導計画及び支援計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・2か月に1回の発行（月1回発行）達成できなかった。 ・1年生全員実施を対象として、5月～6月に実施 ・指導計画・支援計画を作成 	<p>B A A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け、職員向け教育相談だよりを月1回発行できないことがあった。校内ネットワークや掲示による情報共有を図ったが、周知が不足したので、さらなる活用が見込める。臨時休業明けアンケート、1分間カウンセリングの内容の情報共有は予防的に活用できた。医療機関との連携も図ることができた。 ・支援計画やアセスメントシートを作成し職員間の情報共有、支援会議を行った。必要な生徒には定期的に面談を行った。進路課、保護者、生徒課とも連携できた。発達支援センターからの助言を活用できた。
<p>教職員の資質・能力の向上を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の成果を授業改善や学校運営に役立てた教員90%以上 ・授業参観した教員70%以上 ・授業力自己診断を実施した教員90%以上 ・多様な測定ツールを用いてPDCAサイクルによる授業改善に取り組んだ教員90% ・観点別評価を適切に実施していると答える教員60%以上 ・日常的に授業でICT機器を活用した教員60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・92.9%（89.7%）達成できた。各種研修会等を通して、教職員の資質・能力の向上を支援することができた。 ・57.1%（67%）目標を達成できなかった。 ・92.9%目標を達成した。 ・94.3%（89.7%）目標を達成した。 ・65.7% ・51.4%（60.3%）目標を達成できなかった。 	<p>A B A A A B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の成果を授業改善や学校運営に役立てた教員が役立てようと努力した教員も含めて、92.9%であった。ほぼ、目標を達成できたと評価できる。 ・授業参観した教員は、57.1%と昨年度よりも低い値であった。今後、授業参観の機会を積極的に設ける必要があると感じる。 ・授業力自己診断を実施した教員は92.9%だった。 ・多様な測定ツールを用いてPDCAサイクルによる授業改善に取り組んだ教員が、取り組もうと努力した教員も含めて94.3%であった。 ・観点別評価を適切に実施していると答える教員65.7%であった。これらは、いずれもかなり高い値で、十分評価出来るものと考えられる。成績報告書への観点別評価記載の試行を開始し、成績処理作業のイメージを付けることができた。今後は処理手順の徹底や、評定にかかるガイドライン等の作成・周知が必要になる。 ・ICT機器を活用しなくてはならない状況が増えたため、今まで利用していない教員の積極的な活用が見られた。今後は機器の整備も必要ではあるが、ソフト面の活用方法の共有化を進めていく必要がある。なお、情報機器の老朽化が進み、管理に多大な労力が伴っていることも今後の検討事項である。

様式第3号

<p>教職員のメンタルヘルスの増進及びコンプライアンスの徹底を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> メンタルヘルス及びコンプライアンスに関する研修の実施1回以上 	<p>【随時実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県教委が作成するコンプライアンス通信の発行等にあわせて実施した。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教職員のメンタルヘルス及びコンプライアンスの徹底は、常に意識し継続していくことが重要である。
<p>学校教育活動に関する広報を充実する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを月15回以上更新 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを月15回以上更新は達成された。 昨年度更新回数【184回】 週平均【4.1回】 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 休校期間中や学校行事自粛期間でも出来る限り話題を見つけてHPに掲載し、学科イベントや学年行事も積極的に掲載して、保護者からの理解と協力を得られるように、また中学生が本校を希望してくれるように情報発信を工夫出来た。 学校経営計画書での「月15回以上」の目標も学校再開後は平均して内容の充実とともにクリアできた。
	<ul style="list-style-type: none"> コロナによる開催中止以外のイベントについて、参加を積極的に行い科及び学校に対する広報活動を行った。 静岡科学館「る・く・る」の「カガクを究める」参加 課題研究を用いた校外活動、学科研究部での校外企画への参加が行えた コロナ禍での各行事において、できる範囲で生徒主体として行い、広報活動が推進できた。 静岡県立大学の出張授業はできた。 コロナ感染症流行のため、中止した出張授業があった。 化学グランプリや科学の甲子園を実施することができた。 	<p>A</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「る・く・る」の体験教室に参加。実学チャレンジフェスタはWeb開催に参加した。 製作物を計画・作成する時間の確保が必要。 外部へのイベントに参加することにより、一般の方とコミュニケーションをとり、自分たちの研究の内容を伝えるよい機会となった。 水道局との連携事業、民間企業とのWebサイト制作企画等、校外活動を実施できた。 オンラインでの実施を検討する。 教科や学科を横断した取組が増えている。
<p>校務の円滑、かつ適切な実施を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が校務で共有サーバを使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ファイルサーバ等の共有機器は、問題なく運用できている。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> さらなる利便性とセキュリティ確保の観点からバランスの取れた運用方法を検討したい。また、迅速な障害復旧できる体制を整える必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善を心掛けたとする教員70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度より勤務時間が減少したと よく感じる4.3% 時々感じる8.6% あまり感じない45.7% 全く感じない54.3% 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「やめる、減らす、変える」ことにより、業務の効率化、多忙化解消及び教育の質の向上を図り、現状の業務の改善を進めていく必要がある。 勤務時間が減少したと感じている教員は少なく抜本的な業務見直しを図り改善することが必要である。 「生徒と向き合う時間」や「授業準備時間」が増えたと感じる教員は少なく、業務改善を進め、勤務時間内にゆとりが感じられるよう具体的な対策を行う。

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の点検の日を設け P F I 担当者との点検月 1 回以上実施 ・省エネ・省資源への取組を進め、コスト意識を醸成し、消費電力量を削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月 1 回の点検を行い、危険箇所や不良個所の情報共有及び改修することができた。 ・「消費電力量の削減」については、新型コロナウイルス対応で室内換気をしながら冷暖房をする必要があったが、年度当初に休校があったため、削減できた。(前年(4～11月)比 95.5%) 	<p>B</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・点検及び小規模な改修は速やかに対応できた。今後も P F I 事業者と連携を密にして、危険箇所の解消に努めていく。ただし、大規模な改修については、P F I 事業者が施行するか、学校が施行するかの判断を県教委と相談して、迅速に対応していく。 ・エアコンの使用電力量が大きな比率を占めるが、生徒の体調管理に十分注意しつつも、授業空き時間のスイッチ切り忘れ防止についての呼びかけ強化や、省エネ型の電化製品への交換に取り組んでいく。
--	--	---	---	-------------------	---